

第3B（中）分科会 —教育環境整備に関する課題—

提案主題 保護者や地域に信頼される学校づくりの推進
～地域とつながる活動を通して～

司会者	津久見市立第一中学校	樋口 千恵美
提言者	津久見市立第二中学校	一瀬 修一郎
助言者	大分市立植田西中学校校長	大賀 弘史
記録者	津久見市立保戸島中学校	高橋 浩二

1 協議の柱

- ・保護者や地域に信頼される学校づくりの推進における、教頭の役割はいかにあればよいか。

2 協議の実際

(1) 発表に対して質疑応答

質問 本校でも地域の方や機関を学びの応援隊として育てていきたい。そのために、「子育てプログラム」を是非とも参考にしたいのですが。

回答 福岡県春日中学校のものを参考にして、家庭・学校の役割を明確化するなどの視点を取り入れながら現在作成中である。

質問 学校運営協議会のスペースや人員の配置、市周辺部の地域の方の参加はどのようになっているのか。

回答 図書室などを事務局として利用している。事務局は教頭が担当している。統廃合された周辺地域の区長が協議会に入っている。

(2) グループ協議

○コミュニティ・スクールに関わった経験から、教職員の意識や参加体制は最初はとまどうが、3年が経過すると慣れてきて、円滑に取り組めるようになってくる。

○校長・教頭はもちろんであるが、職員と地域のつながりをもっと増やしていきたい。

○地域から信頼される学校づくりのためには、HPや学校便りなどで情報を発信し、クレーム処理を迅速にすることが必要である。

3 指導助言

○コミュニティ・スクールの取組は、究極の「教育環境整備」となるものである。大分県は市町村単位での指定が多いが、これからは全ての学校でこの方向にいくだろう。実践を積み重ねていき、よりよい方向にもって行って欲しい。

○学校が地域に入ろうとすれば、どのような形でも入っていける。普段から心がけ、地域から支援したいと思われる学校にしていきたい。

○小中一貫とコミュニティ・スクールの方向に学校は進んでいく。しかし、拒否感・わずらわしさなどから、教員は積極的に受け入れない所もある。うまく地域の人材を取り込んでいる学校は、一時的には仕事は増えるが、教育内容・施設が充実し、教員の負担感はなくなってくる。

○基本的に地域の方々は学校を応援したいと考えている。教頭が世話役となり、当たり前のように地域の方を取り込めていけるようにして欲しい。津久見市の実践は大分県の先進例として、貴重な取組である。プラス・マイナス面をしっかりと記録し、多くの学校に示唆を与える取組となるよう期待している。